

二〇二三年一〇月一七日（参加者八名）

深山道ダム湖に出でてより清か

わかば

溪谷の奈落に逸る紅葉川

ぼんこ

黄落の道の木洩れ日拾ひゆく

わかば

敗荷の大きな葉をば支へかね

わかば

定例会会みのる選

秋の日を燦と弾きぬ鏡池

わかば

二〇二三年一〇月一七日（参加者八名）

一溪の底ひ彩なす紅葉川

わかば

蠅螂の枯れて花魁歩みかな

あひる

風草を通りぬけゆく風さやか

あひる

溪谷へ十重二十重なす紅葉かな

あひる

身に入むや残念石の穴虚ろ

うつぎ

伸びきつて蓮の台の枯れるたり

うつぎ

凭れあひ支へあひつつ蓮枯るる

うつぎ

秋嶺の天辺にたつ慰霊塔

小袖

秋うらら湾に犇めく釣り筏

小袖

杜深く神さぶ秋の声を聞く

もとこ

秋草を揺らして機嫌大水車

もとこ